様式作成機関：新潟地方気象台　　資料－7

カテゴリ	①円滑かつ迅速な避難行動のための取組
内　　容	気象情報の充実、予測精度の向上
実施主体	新潟地方気象台

線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけについて

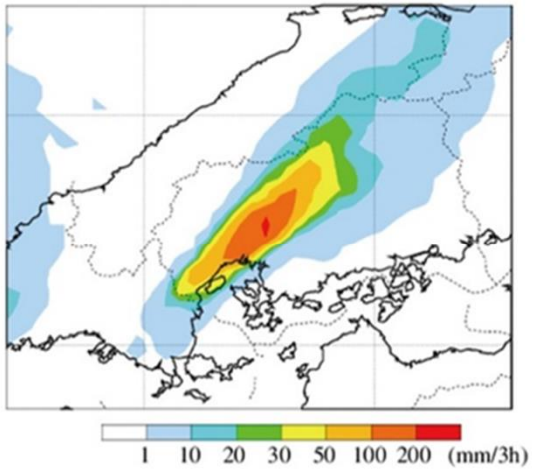
令和6年度
「糸魚川地域における二級河川減災対策協議会」
「糸魚川地域における二級河川流域治水協議会」

新潟地方気象台

線状降水帯とは

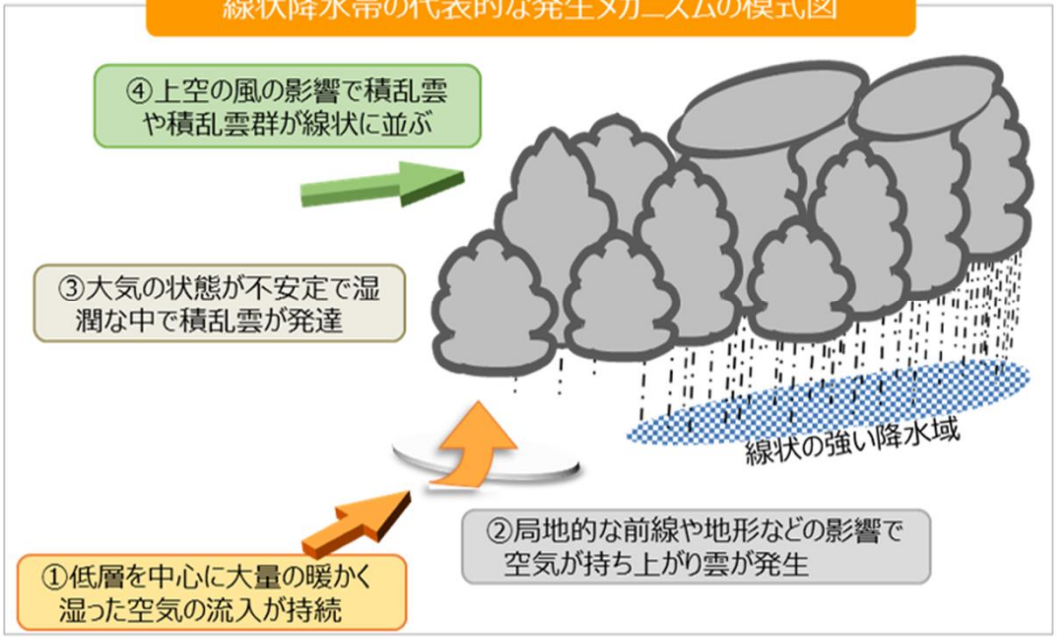
次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、
数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる
長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をともなう雨域を線状降水帯といいます。

線状降水帯の例（平成26年8月の広島県の大雨）

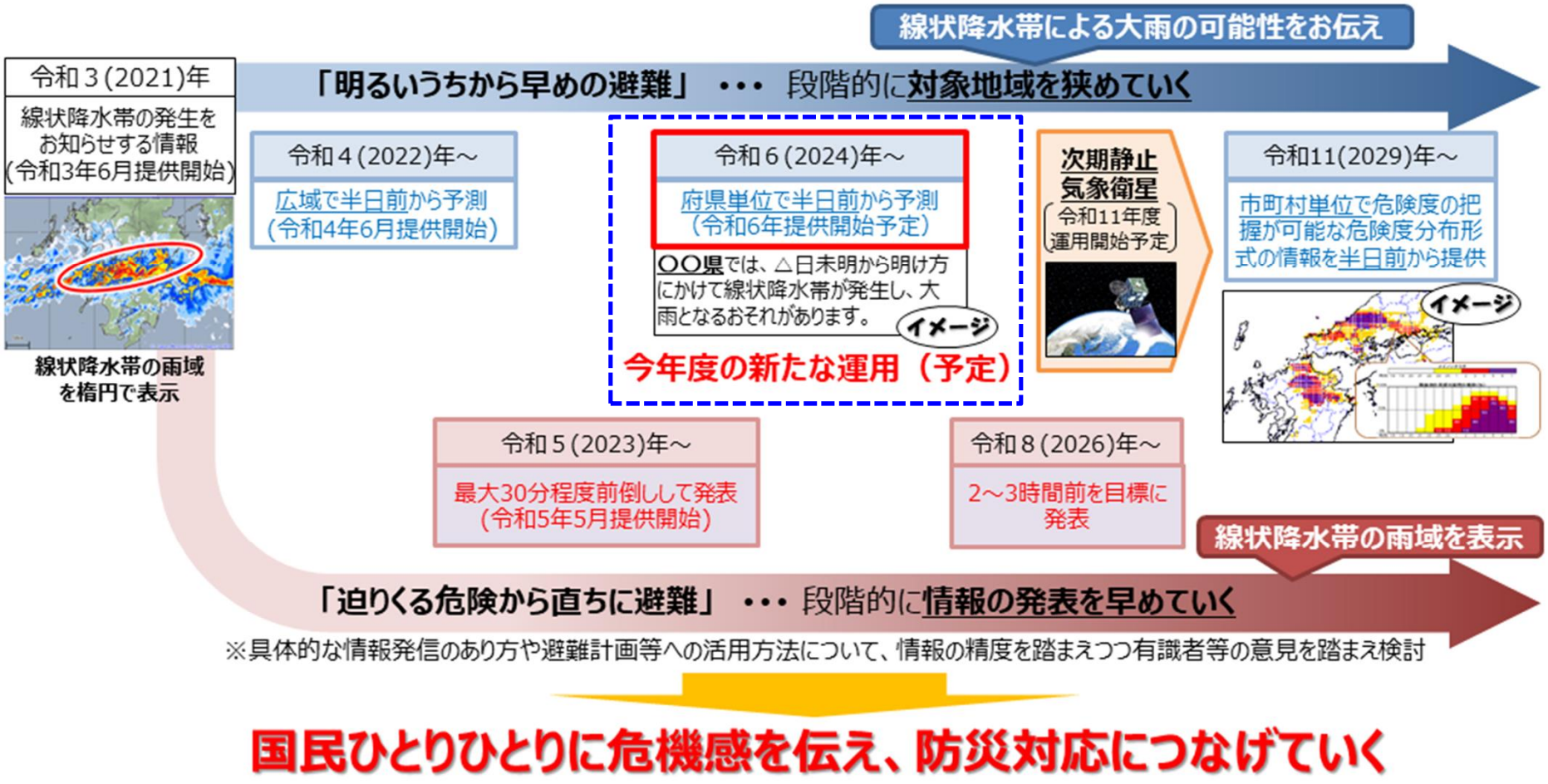


気象庁の解析雨量から作成した、平成26年
8月20日4時の前3時間積算降水量の分布

線状降水帯の代表的な発生メカニズムの模式図



線状降水帯の予測精度向上等に向けた取り組み

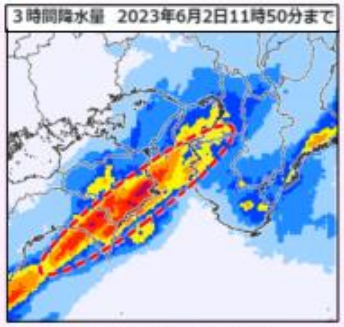


令和５年の実績～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～

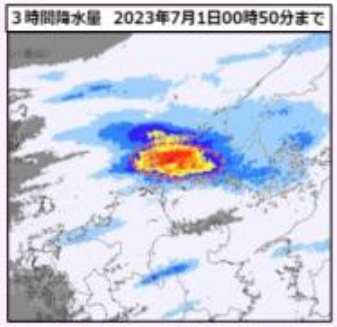
気象庁 Japan Meteorological Agency

●気象庁では、令和４年６月より、線状降水帯による大雨の可能性がある程度高いことが予想された場合、半日程度前から「線状降水帯」というキーワードを使ってその旨を呼びかけている。
●線状降水帯は予測が難しい現象であることから、現状では、「○○地方」といった広域での呼びかけを行っている。
●線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施したとき、実際に大雨となる可能性が高いことから、**この呼びかけが行われたときには、大雨災害への心構えを一段高めていただくことが重要**である。

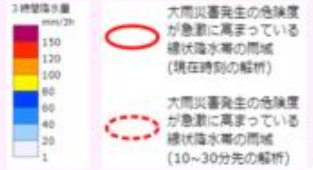
	運用開始前の想定（令和元年～３年のデータから検証）	令和5年
適中 線状降水帯発生の呼びかけ「あり」のうち 線状降水帯の発生「あり」	４回に１回程度	**22回中９回**
見逃し 線状降水帯の発生「あり」のうち 線状降水帯発生の呼びかけ「なし」	３回に２回程度	**23回中14回**



6/2近畿地方における例



7/1九州北部地方における例



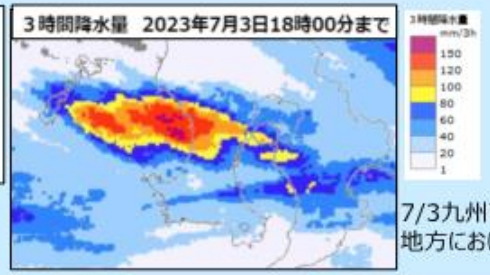
●線状降水帯発生の呼びかけを行った22回中、実際に線状降水帯が発生したのは９回であるが、それ以外にも、

・３時間降水量が150mm以上となった事例が３回

あることから、**この呼びかけが行われたときには、大雨災害への心構えを一段高めていただくことが重要**である。

線状降水帯の発生をお知らせする「顕著な大雨に関する気象情報」は、現在、10分先、20分先、30分先のいずれかにおいて、以下の基準をすべて満たす場合に発表します。（令和5年5月25日以降）
① 前3時間積算降水量（5kmメッシュ）が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
③ ①の領域内の前３時間積算降水量最大値が150mm以上
④ ①の領域内の土砂キキクル（大雨警報(土砂災害)の危険度分布）において土砂災害警戒情報の基準を超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）において警報基準を大きく超過した基準を超過

線状降水帯の発生に至らなくても大雨（３時間降水量が150mm以上）となった事例



7/3九州南部・奄美地方における例

令和５年の実績（７月まで）～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～

気象庁 Japan Meteorological Agency

線状降水帯の発生日※1	地方予報区	線状降水帯の発生状況	呼びかけ状況	3時間降水量最大値※2
3月22日	沖縄地方	線状降水帯が発生（沖縄県）	呼びかけできず	約190ミリ
6月2日	中国地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約60ミリ
	四国地方	線状降水帯が発生（高知県）	呼びかけを実施	約200ミリ
	近畿地方	線状降水帯が発生（和歌山県、奈良県）	呼びかけを実施	約170ミリ
	東海地方	線状降水帯が発生（三重県、愛知県、静岡県）	呼びかけを実施	約170ミリ
6月2日～3日	関東甲信地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約120ミリ
6月19日	九州南部・奄美地方	線状降水帯が発生（鹿児島県）	呼びかけできず	約170ミリ
6月20日	九州南部・奄美地方	線状降水帯が発生（鹿児島県）	呼びかけできず	約250ミリ
6月30日～7月1日	九州南部・奄美地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約130ミリ
7月1日	九州北部地方	線状降水帯が発生（山口県）	呼びかけを実施	約160ミリ
7月2日	九州南部・奄美地方	線状降水帯が発生（鹿児島県）	呼びかけできず	約250ミリ
7月3日	九州北部地方	線状降水帯が発生（熊本県）	呼びかけできず	約200ミリ
7月3日～4日	九州南部・奄美地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約170ミリ
7月8日	中国地方	線状降水帯が発生（島根県）	呼びかけできず	約160ミリ
7月10日	九州北部地方	線状降水帯が発生（福岡県、佐賀県、大分県）	呼びかけできず	約190ミリ
7月12日～13日	北陸地方	線状降水帯が発生（石川県、富山県）	呼びかけできず	約200ミリ

地方予報区（全国を11ブロックに分けた地域）

令和５年６月２日０５時５１分
大阪管区気象台発表

近畿地方では、２日午前中から夜にかけて線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。また、近畿地方では、２日昼前から夜遅くにかけて、局地的に雷を伴った非常に激しい雨が降る見込みです。
２日昼前から３日明け方にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒してください。

半日前からの呼びかけの例

※1 線状降水帯の発生がなかった場合は、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけの対象日。
※2 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準の1つである前３時間積算降水量最大値が150mm以上を着色。なお、10～30分先に基準を満たすとして同情報を発表した場合、実際には前３時間降水量積算値が150mmに達しないことがある。
□ 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけが適中した事例。

令和５年の実績（８月から）～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～

気象庁 Japan Meteorological Agency

線状降水帯の発生日※1	地方予報区	線状降水帯の発生状況	呼びかけ状況	3時間降水量最大値※2
8月6日	沖縄地方	線状降水帯が発生（沖縄県）	呼びかけを実施	約140ミリ
8月5日～8日	九州南部・奄美地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約130ミリ
8月9日～10日	九州南部・奄美地方	線状降水帯が発生（鹿児島県、宮崎県）	呼びかけを実施	約190ミリ
	九州北部地方	線状降水帯が発生（熊本県、大分県）	呼びかけを実施	約150ミリ
8月10日	四国地方	線状降水帯が発生（高知県、愛媛県）	呼びかけできず	約180ミリ
8月12日	東北地方	線状降水帯が発生（岩手県）	呼びかけできず	約150ミリ
8月15日	四国地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約100ミリ
	中国地方	線状降水帯が発生（鳥取県、岡山県）	呼びかけを実施	約160ミリ
	近畿地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約190ミリ
	東海地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約190ミリ
	関東甲信地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約90ミリ
9月6日	四国地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約60ミリ
	北陸地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約90ミリ
9月6日～7日	東海地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約90ミリ
	関東甲信地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約50ミリ
9月8日	関東甲信地方	線状降水帯が発生（東京都、千葉県、茨城県）	呼びかけを実施	約250ミリ
	東北地方	線状降水帯が発生（福島県）	呼びかけできず	約250ミリ
9月14日	九州北部地方	線状降水帯が発生（長崎県）	呼びかけできず	約170ミリ
9月15日	九州北部地方	線状降水帯が発生（長崎県）	呼びかけできず	約140ミリ
9月21日	近畿地方	線状降水帯が発生（奈良県、和歌山県）	呼びかけできず	約200ミリ

※1 線状降水帯の発生がなかった場合は、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけの対象日。
※2 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準の1つである前３時間積算降水量最大値が150mm以上を着色。なお、10～30分先に基準を満たすとして同情報を発表した場合、実際には前３時間降水量積算値が150mmに達しないことがある。
□ 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけが適中した事例。

地方予報区（全国を11ブロックに分けた地域）

令和５年６月２日０５時５１分
大阪管区気象台発表

近畿地方では、２日午前中から夜にかけて線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。また、近畿地方では、２日昼前から夜遅くにかけて、局地的に雷を伴った非常に激しい雨が降る見込みです。
２日昼前から３日明け方にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒してください。

半日前からの呼びかけの例